

4 パネルディスカッション

テーマ：「語り合おう！ 私達の新しいまちを」

（コーディネーター：まちづくりフォーラム 中俣知大代表）

それでは、これからパネルディスカッションに入りますが、我々45名のメンバーが5回にわたって会議を重ねてまいりました。1回の会議が1時から5時まででしたので、4時間。1人が5回掛ける4時間で、20時間。それに45名を掛け算すると900時間という時間を費やしましての提言書になっております。これを1時間半ぐらいで説明するわけですが、皆様、この緑の冊子の6ページの右側に緑色に刷り込まれているところをご覧くださいませんか。提言書の内容を手っ取り早く理解してもらうために、これをちょっと説明したいと思います。

この提言書の構成は作業順序とまったく逆に並んでいると思ってください。

ピラミッド型がありますが、一番下に「意見が152」と出ております。これは、たとえば13ページをお開けください。13ページの黒丸印で、丸ポチで書いてあるのが、13ページ、上からいきますとギリシャ文字で1、2とありますね。その下にアンダーラインがあって、ブルーのところですが、地区内アクセスとか、算用数字でございますね、その下に丸ポチで書いてありますのが152の意見です。

それをグループの提言といたしまして49の項目に整理いたしました。その49の項目というのが、実は算用数字で書いてある、青い文字ですが、算用数字で書いてあるのが、例えば14ページに2番、3番と算用数字で並んでますね、これらが実は49項目ございます。

そして、それらの49項目をさらに整理しますと、16のテーマに整理することができました。この16のテーマというのが今の13ページで言いますと、たとえば、社会基盤グループの提言では、ギリシャ文字の1、2となっておりますね。ずっとページが続きますと、社会基盤が2つ、生活環境が4つ、保健福祉が3つ、産業経済が4つ、教育文化が3つ、合計16のテーマに整理してございます。

この時点で5つの分科会の柵を外しまして、全部意見をばらしまして解いてみまして、それを垣根を乗り越えて解いて整理したのが提言の4つになります。この提言の4つというのは8ページになります。四角括弧で書いてございます。1、2、3、4ですね。この8ページ、9ページ、10、11ページまでに整理されているのがさきほどの16項目ですが、これを4つの提言に括ったということです。

そして、さらにそれを大きく捉えていくと、大きな視点が2つ見えてまいりました。その視点がページです。新しいまちづくりの視点。四角く囲ってございますが、ここが1つは地域力という言葉ですね。地域力をはぐくみ新しい地域創造をめざす。2つ目が、都市力、都市の魅力ですね、都市力を最大限に発揮する。この2つの言葉に括れると思います。それで、そのピラミッドの一番上に、我々まちづくりフォーラムの提言といたしまして、「地域力が奏でる都市力の創出をめざして」という言葉でタイトルとしてまとめてみました。

これを一応前置きといたしましてパネルディスカッションに入っていこうと思いますが、それでは、まず、社会基盤から各グループの提言を説明してもらいたいと思います。時間の関係もありまして、一応、下書きを読んで要領よく説明するというところもあるかと思いますが、お許しください。

では、社会基盤の小辻さん、よろしくお願いします。

(社会基盤グループ 小辻浩史委員)

社会基盤グループでは、構成メンバーがバラエティーに富んでいまして、いろんな角度から意見が出ました。提言書の13ページから15ページが私どものグループの提言となっております。ご覧のとおり、最終的には、「どこへも便利 どこからも便利なアクセス網の充実」と「新しいまちを描こう 顔づくり・姿づくり・まちづくり」という2つの提言に集約しております。

最初の「どこへも便利 どこからも便利なアクセス網の充実」の提言では3つのサブテーマがありまして、1つが、地域内アクセスの向上や各地域と空港との利便性を高める。ここでは、1つのまちとなるわけですから、地域内のアクセスをよくしようということを目的にいろんな意見が出ております。現状では、問題点・課題を解決していくことを主眼に置いた内容となっております。

それから、2つ目が、甕島との一体的なインフラ整備の推進ということです。甕島という島嶼部を含む合併ということで、蘭牟田・瀬戸大橋架橋による甕島・串木野間の利便性向上、これは新市の一体化からも重要なことではないかという観点で取り上げております。また、急患への対応強化ということでヘリポート建設の必要性や海上タクシーの活用等が出ております。

3つ目は、地域内の移動手段の確保・充実による活性化です。くるくるバスなど、それぞれの市町村で実施してきたよいものを地域全体に広げていこうというものです。

次に、2番目の提言も3つのサブテーマで構成されています。

提言書の14ページの下からの方ですが、最初に、新幹線開通のメリットを最大限引き出す整備の促進をあげております。駅周辺の整備はもちろんですが、その中でも川内駅東側、これは樋脇町・祁答院町・入来町・東郷町側と言って

もよいのですが、こちらの整備及び道路アクセスの向上が求められます。

そして、2番目には、新市が海・山・川すべての資源を有することから、こうした特性を生かしたゾーニングによるまちづくりを行うということでまちづくりを進めていこうということです。

以上が新市の顔づくり姿づくりとし、3番目に、新しいまちづくりのところで、具体的には提言書にありますように、新市の名称をまったく新しい名称にすること。これについてはすでに協議会で決定されました。ただいま名称を公募しているところです。それから、新市で議員数が現在の9市町村議員の単純合計から100人以上減少することになりますので、住民の意見を反映しやすくするために選挙区を導入すること。また、新市のスタートを新たな議員定数のもとでスタートすべきであるということ。住民の意見の反映ということでは、地域審議会の設置はもちろん、それ以外にも住民意見を反映しやすい仕組みづくりなどの工夫をしていくことなどが出されました。

あと、地域文化、伝統を残す方法として、住居表示に字名を残した方がよいのではないかという意見も出ております。

以上が社会基盤グループの提言の概要です。

(コーディネーター 中俣代表)

以上が5つの分科会の中での社会基盤グループの提言内容の概要でございます。

一通り5つの分科会の代表にまとめてもらいますので。では、次に、生活環境の宮下さん、お願いいたします。

(生活環境グループ 宮下文明委員)

生活環境グループの提言は提言書の16ページから20ページになっております。

基本的な方針としましては、環境先進都市を大きな目標としておりまして、離島を含む自治体における安心できる暮らし、定住・交流促進を念頭に置いて、4つの提言をしています。1つ目が、みんなで取り組む環境先進都市づくり。2つ目が、安心できる広域消防・救急体制の構築。3つ目が、地域ニーズを踏まえた住宅・宅地の整備。そして、4つ目ですが、地域内外の人々が集う魅力ある公園・緑地・河川の活用です。

16ページの資料、上の方なんですけど、青い文字で、生活環境グループの提言ということで4つ並んでおりますが、一番下の「地域内外の人々が集う魅力ある公園・緑地の活用」となっておりますが、緑地の後ろに「河川」が入りますので、書き加えておいていただきたいと思います。

1つ目の、みんなで取り組む環境先進都市づくりにつきましては、現在、複数の処理体制がありますごみ処理、し尿処理について、迅速で効率的なシステムに変えていく必要があるのではないかとということと、さらに、ごみの減量・再資源化、不法投棄等のルール違反の監視、指導体制の強化をあげております。また、水がきれいで豊かなまちづくりということで、水質検査の強化ですとか、その結果の公表、川内川を主とした水質保全への取組みなどもあげております。

2つ目の、安心できる広域消防・救急体制の構築につきましては、現在あります消防組合などの管轄の再編ですとか、中心部と山間部を結ぶ道路整備は必要だと思われまして、特に、さきほど社会基盤グループからもありましたように、離島がありますので、急患搬送につきましてはその時間短縮は大きな課題だと考えられます。私達のグループでもヘリコプターの活用ですとか、漁船のチャーターを含めた広域消防・救急体制の整備を取り上げています。さらに、離島からの急患搬送の際に必要なチャーター料、それから、付添い者の方の宿泊費などの負担軽減策も必要と考えられております。これに対しましては簡易の宿泊施設の整備ですとか、それらの提供というふうな必要性があるのではないかとこの声も上がっております。また、防災の面におきましては、地域住民による消防防災体制の充実につきまして、婦人消防隊をも含めました初期防災組織の育成をあげております。

次に、3つ目ですが、地域ニーズを踏まえた住宅・宅地の整備につきましては、公共賃貸住宅の整備と特色のある住宅・宅地の整備の推進を提言しています。過疎・高齢化が進み、特に離島におきましては深刻な問題となっておりますので、定住促進の重要性、そのための住宅整備というものをあげております。

最後、4つ目ですが、地域内外の人々が集う魅力ある公園・緑地・河川の活用につきましては、利用頻度の低い公園を今一度見直したらどうだろうかという意見があがっています。たとえば、あまり利用されていない公園を市民農園にするですとか、昆虫、植物などの自然観察ができる公園にするなどといった、特色を打ち出した人々が集い交流できる場所として活用できないだろうかという考えがあります。また、それらを地域外に誇れる公園としてアピールしていくことも必要だというふうな考えが出されております。また、合併を機に各地の公園に記念樹を植えたらどうだろうかという意見もありましたし、川内川という恵まれた天然資源がありますので、その水質保全と併せまして屋形船ですとかボートなどを浮かべ、川内川に親しむ機会を創出することも大切ではないかというふうな提言もあります。

以上が生活環境グループの提言です。

(コーディネーター 中俣代表)

ありがとうございました。屋形船構想などが出てきてますが、夢のあることだと思います。昔は浮かんでいたようですが、今はないですね。

では、保健福祉グループの伊集院さん、お願いいたします。

(保健福祉グループ 伊集院睦子委員)

保健福祉グループでは、みずから進んで行動し、共に助け合う福祉社会を形成するために、心身の健康づくりや福祉サービスの充実を図るということを基本的な考え方として提言をまとめました。提言は資料の21ページからになります。

保健福祉グループの提言は3つの柱から構成されています。1つが、市民のすべてが住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりの推進。2つ目が、市民すべての健康づくりの推進。そして、3つ目が、安心して出産し、子育てができる支援体制の充実でございます。

1番目の提言は、高齢者・障害者福祉の充実、地域福祉推進体制の充実、甑島からの介助者の経費負担の軽減の3つから成っております。内容的には、高齢者・障害者が快適に日常生活を送れるように、配食サービスとか送迎のサービスなど、各種サービスの充実に加え、そうしたサービスの提供をしていくマンパワーの確保、あるいは、ボランティアのネットワーク化といった支援体制の強化・推進についてまとめました。また、前のグループでも出ておりますが、甑島から本土の医療機関、福祉施設を利用した際、どうしても付添いや介助者の経済的な負担が大きくなります。そこで、そうした方々への助成や低料金での宿泊施設の整備といったことが必要ではないかというふうに考えました。

次に、提言の2番目でございますが、健康づくりの観点からまとめております。ここでは拠点施設の充実、保健サービスの充実、甑島における医療施設の充実を提言しています。拠点施設の整備では、温泉を利用したユニバーサルデザイン化複合施設の整備を取り上げました。研修施設のみならずスポーツ施設とかレストラン、あるいは地域の特産品等の販売コーナー等を併設すれば、世代を超えた交流の場として活用が期待できると思います。また、保健サービスの充実は、病気にならない、かからないといった予防の観点から提言しています。そして、甑島の医療に関しては、島内の医療施設を充実するほか、すばらしい自然環境を生かしたケアハウス等の施設設置を提言しています。

最後に、3番目でございますが、安心して出産し、子育てができる支援体制の充実ということで、保育サービスの充実と小児科の充実、24時間体制の小児科の設置など、小児医療体制の強化をあげております。少子化・核家族化の進行、女性の社会進出など、子育ての環境は大きく変化してきておりますので、それに対応した環境整備を提言しています。ここでは保育料の低料金化、子育て

て支援のためのボランティア育成などをあげています。

以上3点が保健福祉グループの提言でございます。

(コーディネーター 中俣代表)

ありがとうございました。まちづくりフォーラムで出てきた議題で、甕島の方々の医療問題というのは非常に大きく取り上げられました。また、介護、介助する人の宿泊の問題、費用の問題、結構医療費に大きな負担があるんだということでした。それから、ちょっと補足しますが、ユニバーサルデザイン化複合施設というのは、老若男女、年齢、性別すべてどんな方でも使えるような施設という意味で使っている言葉です。

それでは、次に、産業経済グループの柏木さん、お願いいたします。

(産業経済グループ 柏木俣委員)

それでは、産業経済グループの提言をご説明いたしますが、24ページから27ページをお開きください。

産業グループでは4つの提言をいたしておりますが、1番目に、新たな時代に対応したダイナミックな農業の展開。2番目に、力強い水産業の新たな展開。3番目に、裾野の広い観光産業の振興。4番目に、都市の魅力の創出とありますが、ただこれは順番に並べてありますだけで、いずれが優先ということではございませんので、そのおつもりでお願いしたいと思います。

まず、第1次産業ということで、皆さん方もすぐ農業が頭に浮かばれるのではないかと思いますけれども、新市13万人になりましてもやはり農業が第1次産業でこの地域を潤していくことは間違いなさだろうというふうにご承知しておりますので、まず第1番目に農業の問題を取り上げております。

ご承知のとおり、農業というのは非常に幅広い仕事をたくさん持っているわけですけれども、特にこれから先の高齢化社会、あるいは農業従事者がある程度減少していくのではないかなというもののの中では、当然、川西薩地区がこれから先発展するためには、ぜひ農業公社の設立をお願いしたいというのが提言でございます。これは皆さん方農業に従事されている方はもう十分ご承知のように、オペレーターを育成したり、あるいは、新規の就農の方々をお願いしたいといういろんな手立てが農業公社から発展していけば、作る作物の内容についてもまた変わっていくんじゃないかなということがございますので、ぜひこれは新市の中では取り上げていただきたいということをお願いしております。

また、今、地産地消という言葉がよく言われておりますけれども、私どもは当然地産地消の中で特にこれ以上の物の考え方というのはまだまだたくさん

出てくるのではなかろうか。たとえば、新市内で生産された農産物や水産者などを新市内で消費する。あるいは、それ以上なパターンでこれを消化していくという方法も当然考えていく必要があるのではなかろうかというふうにも考えますし、そこにはダイナミックな農業という言葉を使いましたけれども、今ある考え方、いわゆる旧態依然としたイメージの農業ではなくて、新しい方策をまたここで取り入れていけばいいのではなかろうかということでございます。それはさっき申し上げましたように、農業公社の設立を通じて地域のいろんな方策をその中で処理していただきたいというのが提言の内容でございます。

それから、当然、今米の生産体系が国から示されておりますが、平成16年度、2006年はこれが変わるんだということでございますが、その中でも集落営農というのを取り上げておりますが、今、認定農業の方が一生懸命農業をされているわけですが、ある程度きますとそこに限度があるんじゃないかなということで、今、農業に携わっている方々の中でも、あるいは高齢化、あるいは労働力の不足というものを加味しますと、集落の営農体系というものもぜひこれから先の農業の中には基軸として取り入れてほしいというふうに考えております。当面、今のところは集落単位の集落という名前を使っておりますが、将来、大きくなりましたら校区単位とか、いろんなそういう角度の中でまた農業の形態も変わった方向で推進をしてほしいなというふうに考えております。

それから、重点的な農業の振興作物、あるいは独自的な産品を作るということも当然考えていかなければならないわけですが、今、いろいろと国から農業に対しては助成や交付金などたくさんもらっておりますけれども、これがいつまでもそれが続くというわけではございませんので、そのへんも加味しながら農業に対する基本的な考え方は見直す必要もあるだろうというふうに思っております。

次が、2番目の力強い水産業の新たな展開ということでございますが、これは私も失礼なんですけれどもちょっと水産業の方は勉強不足でございまして、私のグループの中から出たご意見をそのままここに出しておりますから、誠に申し訳ありませんが、ここにシナリオの中はもらっておりますので、ちょっと卑怯なやり方なんですけど、これを棒読みにさせていただきます。

2つ目の提言ですけれども、新市は甕島地区や串木野市、川内市にわたる水産業を振興していくという力強い水産業の新たな展開です。水産業の根本的な問題として魚価の安定があげられ、そのために必要なことは、水産物を安定的に出荷できる体制をつくることであるということで、甕島から串木野間の海域に大規模な蓄養基地を作り、いつでも新鮮な魚が供給できる体制を構築したら

どうかということを提言しております。また、これらの魚を新市内に流通する仕組みを作り、物流等に関わる中間コストを省くことで、市民に新鮮な魚を低価格で提供できるようにするとともに、ということを提言をしております。さらに、水産資源は年々減少していることから、作り育てる漁業を進めるために大型漁礁を設置することも提言をいたしております。

次に、3番目ですけれども、裾野の広い観光産業の振興ということで出していますが、川西薩地区には、さっきもちょっとどなたか触れられましたけれども、海や山、川などの自然の資源、あるいは歴史的な文化の資源、あるいは温泉等々、いろんな観光資源があるわけですが、これらの特性を生かした個性のある観光づくりをしていきたいということでございまして、合併によって様々な資源の相乗効果を期待することに加えて、それぞれの特性を生かした新しい観光地づくりも可能になるのではなかろうかというふうに考えております。また、観光産業の振興を積極的に支援するために、新市の行政組織の中にぜひ観光課を設置していただきたいというのも提言として出していますが、これは他の委員の方の要望でもございました。

それから、4つ目になりますけれども、産業経済活動をするためにはそれに対応した道路や情報通信基地などのインフラが必要なことから、都市の魅力を創出していくことを提言としてまとめております。港湾機能の強化や産業道路の整備などを進めて、経済産業活動を支えて基盤を整備するとともに、市街に都市的な魅力を作り、人々が集うにぎわいのあるかたちを形成をしていきたいということでございます。特に、商店街の専門化、こだわりを持つまちづくり等々、これから先まだ都市を今よりより人が集まってくれるような場所にしていきたいというふうに考えております。これらの振興策を進めるために、合併効果をできるだけ拡大効果があるようにし、違う資源が融合する相乗効果を発揮し、特徴ある産業を育てていくという方向で提言をまとめております。

少し言い方がおかしくなったんですけれども、皆さん方の力をお借りしながら、農業から都市の機能まですべてが、13万都市になった時には、なるほどこういうふうなスタイルかなというものが打ち出せたら一番いいのではなかろうかというふうに考えておりまして、提言を終わらせていただきます。

(コーディネーター 中俣代表)

ありがとうございました。いろんな提言がございましたね。農業公社の設立とか、水産業の蓄養基地を作るとか、観光課の設立。これあたりですべてに通じるのが力強い産業ということで、わざわざ外から来てもらうというような言い方でまとめてございます。たとえば、ギリシャ文字の2番、力強い水産業の、算用数字の2ですね、あたりでわざわざ来てもらう。地産地消だけではなくて

わざわざ外から地域外の人も来るような産業づくりというところまで踏み込んでいるようです。

では、第5分科会の教育文化で、中島さん、お願いいたします。

(教育文化グループ 中島増夫委員)

教育文化グループの提言についてご説明を申し上げます。9名の委員の中に教育関係の方や社会教育関係団体の関係の方が多くございまして、深く広い立場からご提言をいただいたと、そういうふうに思っております。9名の委員がお互いに心を通い合わせて、新市の教育文化づくりのことに本当に真剣に話し合いをいたしました。資料の28ページからが教育文化関係の提言でございます。

教育文化活動というのはすぐれた地域性を持っている、地域社会に深く根ざすということから、各地域の特色を十分に生かしながら新市教育文化の創造をめざす、そして、ネットワーク化を図っていったらどうだろうかというのが提言の骨子になっております。

提言は資料の中にございますように、地域の特色を生かした教育の推進。そして、特色ある地域文化の保存・継承の推進と新たな文化の創造。そして、コミュニティ活動の維持・強化を図っていくという3つの分野に分けてまとめてございます。

提言の第1は、地域の特色を生かした教育活動を推進・充実するということでございます。ここでは幼・小・中・高等学校の学校教育の地域の中に立脚した振興。また、生涯学習のいろいろな場においてネットワーク化による広域的な展開を図ったらどうだろうかということ。さらに、スポーツ活動を通じた健康づくり。そして、地域スポーツクラブ運動を展開していくということ。さらに、現今問題になっております青少年の育成問題では、地域の力を伸ばして地域の青少年育成活動の充実・推進を図っていく、これは現在どこでも言われていることではございますが、新市においても行う。それらを支援活動するために教育行政推進体制を今より落さないようにしていきたい。維持・充実していくということを中心として提言をいたしました。

学校教育の面では、学校規模や地域性により様々な特性や問題を抱えている学校教育の振興・充実を特認校の制度とか、また、いろいろな方策を通じて充実し、学校間の交流によってそれを向上させていくことを内容としております。

また、社会教育とか社会体育の面では、各地域の公民館等の生涯学習の施設間のネットワーク化を図って、それぞれ特色を生かしながら新市の中で、さきほどの話ではないですが、オーケストラを奏でる、そういったものはできないかという提言になっているところでございます。

提言の第2は、伝統芸能など地域文化の関係でございます。新市内の各地域にはそれぞれ地域に根ざした伝統的な芸能文化がございまして、その存続とか維持には多くの問題を抱えております。新市におきましてもそのための努力や施策の充実が誠に重要でございます。さらに、これが新市全体の伝統文化として、新市ふるさとづくりに発展させたいとの思いもでございます。

この中での2つ目の、組織団体の関係については、次のコミュニティ活動と深いつながりがございまして、文化団体をはじめ串木野のすばらしい女性団体、そういった社会教育関係団体等についてそれらの維持及び活性化への取組みについては、さらなる援助・助成が必要でございますし、新市として広域的な活動交流の推進を提言をいたしております。

3番目のコミュニティ活動についてでございますが、地域社会の基礎として単位自治組織の維持・充実は今後の、さきほどから話っております少子・高齢化等の社会構造の変動とか、そして、さらに、新市の未来を担う青少年の地域ぐるみの育成活動、その場としてさらに深くそれを充実していくということが非常に重要であるという提言でございます。特に、過疎地域の自治公民館活動の助成が不可欠でございます。また、新市の都市部での自治組織への未加入問題が新市の住民福祉の振興を図る上から大きな課題でございます。自治組織への加入促進など、新市における自治組織のあり方については、行政施策を含めまして前向きな対応が望ましいということございまして、そのような提言を教育文化グループとしてはいたしているところでございます。以上でございます。

(コーディネーター 中俣代表)

ありがとうございました。教育文化では、特に地域性という言葉が強く使われておりますが、このまちづくりフォーラムの1つのタイトル、地域力ですね、地域力という言葉もこのへんから生まれてきましたが、実は、我々が第1回のまちづくりフォーラムを開催した時の前半の2時間ぐらいは、ほとんど心配とか不安とか、そういう意見ばかりでした。ですよね、皆さん。一体どうなっていくんだろうと。心配事が、今まで平穩無事に暮らしてきているところに、大きな改革というところでいろんな状況が違ってくるというところで、本当に心配事が多かったんですが、せっかくのこの合併というのを大きなチャンスとして、千載一遇のチャンスとして、50年に1回あるかないかだと。一生のうちにめぐりあえるのもいいじゃないかという気持ちになったのは2回目ぐらいからかもしれません。実は、33ページ以降に、各第1回から5回までの内容を具体的に書いてありますが、これは実はなまなましい記述が多いです。おもしろいと思います。あと、遠慮、会釈ない意見もそのまま一応取り上げてごさいます。提言書の整理した文章は一応行儀よく整理、言葉遣いも行儀よく整理されているんですが、皆様時間がありましたら33ページから後の方が実におもしろい意見、辛辣な意見とかありますので、関係される方には耳が痛い意見も出てたりしていると思いますが、そうしたことも踏まえまして、取りまとめてまいりましたが、この行儀のいいフォーラムの内容以外に、また、各分科会の中でも出た内容をちょっと聞いてみたいと思いますが、たとえば、甑島の医療問題についてとか、保健福祉の伊集院さん、保健福祉グループの方で出た意見等をちょっと紹介していただければどうかと思います。

(保健福祉グループ 伊集院睦子委員)

私どもグループのメンバーの中には、保健福祉の分野で活躍されていらっしゃる方、あるいは、個人でボランティアグループを立ち上げて、そして、地域に溶け込んだ活動をしていらっしゃる方々がいらっしゃいまして、最初の会議の段階では高齢者福祉や児童福祉、それから障害者福祉、保健・医療といった各分野別に現状とか今後の課題、要望といったかたちで、それこそフリートールキングで出して、そして整理する作業を行いました。資料では46ページから49ページに第2回の会議録、61ページから65ページに第3回の会議録に整理してごさいます。

現状では、各市町村それぞれに現在取り組んでいらっしゃる大変よいもの、大変よいシステム、そういうのが数多くありますので、よいものは合併しても続けてほしいなど、要望の中にまとめてあります。それで、合併で急激に変化

するよりも、特に福祉の分野は一定期間はそのまま、徐々に改善していくのがいいのではないかという意見が出ております。また、現行のサービスの質の低下は避けてほしいという意見でございます。それから、福祉は住民主体でなければならないというような意見もありまして、これは地域のケア体制、地域保健福祉ネットワークの充実とも関係していくと思いますが、そのためにはどうしてもマンパワーの確保ということで、ボランティアなどの育成・強化や、それから、そのボランティア活動への支援の必要性ということも意見として出ております。また、甑島においては人口が減っていくというような、そして、高齢化がどんどん進んでいくというようなことで、さきほどちょっと提言いたしました、甑島の自然環境を生かしたケアハウス、そういったようなものを設置することで、本土と言っていいのかどうか分かりませんが、こちらの方から本土の方からどんどん島の方に渡っていくような、そういったような魅力あるケアハウス等ができたらいいなというふうに話し合いました。これらのことは医療とか保健、子育て支援にも同様の発想が必要と考えられます。以上です。

(コーディネーター 中俣代表)

医療問題については、急病人が出た場合に漁船をチャーターする方法とか、自衛隊のヘリコプターをチャーターする方法、ヘリポートの問題、そういう点も、社会基盤のグループでも話が出ましたけれども、シナリオ通りにはいかずに、社会基盤の小辻さん、そのへんも含めてお願いします。

(社会基盤グループ 小辻浩史委員)

やはり、社会基盤グループでもこの甑島のことがあげられまして、我々が生活する上で本当に必要なもの、たとえば急患が出た時のヘリポートの対応はどうなっているのかとか、急患が出て介護をする時にそういう施設が、簡易宿泊施設があるかなどとか、本当、自分のことに置き換えればぞっとするような心配になるようなことが多々出まして、私どもも、私は樋脇なのですが、なかなか日頃生活していてぜんぜん、あっ、そうなんだと気付かされる部分が多々あったような気がします。

(コーディネーター 中俣代表)

パネラーの1人に、甑島、上甑出身の宮下さんがいらっしゃいますが、ちょっと意見を聞いてみたいと思います。

(生活環境グループ 宮下文明委員)

消防・防災につきましては、さきほど触れましたように、新市には離島があるということで、皆さんどこのグループからも声をあげていただいて、それに

対する対策と言うか、いろいろ打ち出しておられるようですが、紹介いただきましたように私は上甌村に住んでおりまして、この件に関して少々力が入るんですが、甌島においての医療というのは地理的な面で非常に不利と言ってもいいと思います。皆さんはたぶんご存じだと思うんですが、さっき、新市の概況説明の際にスクリーンに写し出されましたけれども、上甌村と里村があるのは上甌島なんです。鹿島村があるのは下甌島なんです。上甌島と下甌島は離れてますので、新しい市は2つの離島を持つということになります。そうしますと、まず、本土とのやりとりもそうなんですが、甌島間の島域交通体系と言うんですか、資料の59ページにあげておりますが、島内での交通体系の整備の充実もやっていかなくてはならないのではないかと。そして、その上で1次医療施設としての総合病院の建設は必要ではないかなというふうに考えておりますし、実際、そういう意見も出ております。ある程度の病気ですとか怪我は島内で対応できれば一番いいのではないかなというふうに考えています。甌島ですとか離島と言いますと非常に遠くて不便でというような、あまりいいイメージを持っていただかないのかもしれませんが、実際いいところなんです。住んでいる本人が言いますから、間違いありません。いいところですので、同じ市内になるわけですので、ぜひ皆さんもお気軽においでくださいということで、宣伝を付け加えさせていただいて、私の方から終わらせていただきます。

(コーディネーター 中俣代表)

上甌島と下甌島の間の藺牟田・瀬戸大橋の問題などが出ましたが、その点については宮下さん、どうですか。

(生活環境グループ 宮下文明委員)

シナリオにない話ですので。いろいろな話を聞きます。橋を作ってもあまり何なのではないのかと、あまり賛成しないような声も実際聞くには聞きます。しかし、私どもの生活環境グループの中に当然鹿島村の方もいらっしゃいまして、その方から話を聞きますと、非常に苦慮されていると。しかし、それはボランティアですとか社会福祉協議会などのサポートによって何とかやってはいらっしゃるようなんですが、救急車の問題ですとかバス路線の問題ですね、やってらっしゃるようなんですが、橋1本架ければかなりの困難な部分がクリアされるような気がします。産業的なもののメリットはないのではないかとかという声も聞きはするんですが、実際人が住んでおりますし、そういった計画があるわけですので、ぜひ架橋問題というのはなるべく早い時期に完成させていただきたいというふうに私個人的には思っております。

(コーディネーター 中俣代表)

お金がかかる問題ではございますが、橋ができると船便をずいぶん増設できるので、甕島への通行が非常に容易になるという意見を聞いております。

中島さんは自分でも教育界にいらっしゃった方でございますが、教育文化の中でも鹿島村のウミネコ留学制度とかそういうのも話が出てきましたが、また、こちらの方でもウミネコだけではなくて過疎化の学校のいろんな制度がありますが、その地域性ということも含めてちょっと話を聞かせていただけませんか。

(教育文化グループ 中島増夫委員)

今、甕島の鹿島で行われているウミネコ留学という、ウミネコというのがあそこの天然記念物になっておりまして、そこの小学校に全国から留学する子供たちを募集して、そこで1年間ないしは2年間教育活動を行っておられると。そして、過疎の地の子供たちも活気を持つといったようなユニークな教育活動が行われているわけございまして、こういうことはやっぱり続けていきたいといったような委員の皆さんの強い意見がございました。その他、串木野市には特認校制度ということで、小規模校には大規模校にないよさがあるから、大規模校の子供たちで希望する子供はそこに行ってもよろしいですよということで、相当数の子供たちがのびのびと勉強しているといったようなのも聞いているわけでございます。さらに、甕島とこちらの方のいくつかの村との町との学校間の交流とか、また、自然教室、キャンプ等を行っているというような事例等もあるわけございまして、新市の域内で子供たちが町と村、島と町、島と村、そういった交流をのびのびとできるような体制ができるなと思うと、心がわくわくするわけでございます。以上でございます。

(コーディネーター 中俣代表)

ありがとうございます。産業経済の方でダイナミックとか力強いとかいう言葉が使われてますが、産業経済の柏木さん、この点についてお話をうかがいたいと思いますが。

(産業経済グループ 柏木倅委員)

水産業のことは詳しくありませんので、フォーラム委員の方からの意見を聞いたものを総合しまして、ここには甕島にはこういうふうなことをしたらいいのではなからうかということで大規模な蓄養基地づくりをまずしようというのは、これはご承知のように、魚を売るのは個人で売られる方もあれば、鹿児島まで持って行かれる方もあれば、漁協で売られる方もあって、いろいろパタ

ーンがあるそうでございまして、なかなか一律にこれを統制するというのか、一本化するというのは非常に難しいのではないかなという意見が私のグループでは出ておりました。そこで、1か所に魚をたくさん集めておいて、それを串木野港に陸揚げして、何か一番いいまい方法で売れる手立てがあればいいんだらうということで蓄養基地の提言をいたしております。これは多少お金のかかることだと思います。また、漁礁もぜひほしいというのも当然これからは作る魚づくりというのもあるだらうと思ひましてそういう提言をいたしておりますが、当然、新しい市づくりになりますと、あまり財政投資がよくないよとおっしゃれば、ぱっといなくなるんじゃないかなという懸念もされますが、そういうことはぜひできるものは実行してほしいというのが私どもの委員の中から出ている声でございました。

それから、最初にも申し上げまして、少し簡単に申し上げましたが、地産地消の考え方を、今流行りの地産地消よりも、多少変えて、13万という大きな都市になれば、その中で流通機構もいろいろと見直していく必要があるだらうというふうに考えておりますし、当然、その中では農業の形態も、あるいは商業の形態も変わっていくという努力をお互いにしなければならぬだらうというのが基本的な考え方だらうというふうに思います。できるだけ余計な投資や、余計なものは使わずに、その中で一番効率のいいものをまず探していく必要があるだらうと。これは当然新しい皆さん方の考え方、結局、小さい町とか小さい村ではなくて、1本化された13万都市となりますと考え方も自ずからそのへんの視野が広がってくるのではないかという期待と希望は私達は持っております。また、最初も申し上げましたが、第1次産業の農業の振興はまだまだこれからしていく必要が当然あると思ひますので、その中でいろんな産業もまた構図を変えた中で、伸長と言いますか、進捗と言いますか、できるだけ各市民の皆さん方が合併してよかったなというふうなこだわりのあるかたちのものを作り上げていけば、皆さんもいいんじゃないかなというふうな考え方でございます。当然、この中にはさっき申し上げました観光資源等という問題も出ますけれども、そういういろんなものをすべてを組み合わせた1つの流れと言いますか、政治の考え方の中で幅広いものを作っていたいただければ非常にありがたいというふうに考えております。以上です。

(コーディネーター 中俣代表)

今、各地で結構おもしろい店、おもしろい店づくり、こだわった店づくり、あそこまでわざわざ10キロあるけど行ってみようかというような食べ物屋さんとか出てきてますよね。特に串木野はそういうこだわった店がたくさんあるんじゃないかと私は存じておりますが、串木野だけではないですけど。そう

ということで、産業経済部門では人を呼び寄せるような店づくりをしていこうじゃないかということが大きなテーマになっていたと思います。

合併の大きなデメリットの1つとして、地域の声が届きにくくなるのではないかというのが大きな心配の1つでしたが、いろんな制度づくりは上部の法定協議会にお任せするとしても、我々まちづくりフォーラムでも出た意見として、たとえば地域審議会の設置ということなども出てきてますが、このへんについて、社会基盤グループの小辻さん、ちょっとお話を聞かせてください。

(社会基盤グループ 小辻浩史委員)

今、代表が言われたように、住民の方々が、これだけの大きい枠組みになるわけですから、一番心配されているのはそのへんではないかというふうに思っております。面積が非常に広大になるわけですから、住民の声が届きにくくなるのではないか。そこで、きょうは議員の方も出席されておりますが、かなり新市になると少なくなるのではないかと。そういうところで選挙区の導入という意見も出ております。やはり、甑島、川内市を比べますとかなり格差が出てくると思いますが、やはり皆さんが心配しているのは、自分たちの声をどういうふうの上にあげていただけるのであろうかというところがかなり私どもの社会基盤の中でも時間を割いたところになっております。

また、社会基盤と言えはかなりの外枠だと思うんです。そこで、観光マップを使って、皆さんがたとえば串木野の方が空港まで行くのにどういう道路を通って行くのであろうと。そういうところで問題提起を点で示していきました。そこをどういうふうに解決していけばよろしいのかということで、点を線でつなぐ作業を皆さんで、観光マップを円卓の真中に置きまして、ここが橋が狭いんだよねとか道路がよくないんだよねというところで、やはり肝心となるのは交通アクセスの関係ではなかろうかと思っております。また、新幹線開通も控えていますし、空港及び地域内アクセスの充実といったことが論議の中心でありました。

また、甑島との海上アクセスでは、たとえば、さきほどからお話に上がっておりますが、蘭牟田・瀬戸大橋が完成することによって島内の陸上移動が可能になることで、串木野と甑島との高速船がピストン輸送が可能になり、一気に利便性も高まってくる。これは別に甑島だけのことではなくて、私どもがゾーニングという言葉がありましたが、皆さん、私は樋脇なんです、山と温泉というイメージがあるんです。そこに自分の町に海もできる、川もできる、そういうことを考えると、マリンスポーツもできるじゃないかと。そういう明るい材料もたくさんあるのではないかという意見がたくさん出ておりました。

この他にも様々な意見が出てますが、提言書の後半部分をご覧ください。

と思います。以上です。

(コーディネーター 中俣代表)

ありがとうございました。地域審議会という言葉は、我々も合併を勉強して初めて知った言葉ですが、詳しくはわかりませんが、旧市町村を母体にしてできる組織だそうです。9つの市町村がそれぞれ、9つの古い市町村をベースにして、各市町村での地域審議会というのを、たぶん何年間かということだと思いますが、立ち上げる。これにはどんな方が選ばれるのかまではちょっと忘れましたが、それなりの町のことをよく理解している人たちが委員として選ばれるのではないかと思います。そういう方々が旧市町村のことも見守りながら新市の成長を見守るということになっているようですが、あと、それ以外でも住民の自治組織をこのまま簡単に壊してしまっはいけないよということで、教育文化の方でも項目として取り上げているのが自治組織ということでした。議員の数なども減っていくわけですので、そういう自治会とか公民会とか、そういう組織の充実が図られる必要があるのではないかと、というのがだいたい意見になってきております。当たり前のことでした。

それでは、何か皆さんの方からもう一巡り意見を聞きたいと思いますが、その前にございますか。言い忘れたこととか。

それでは、ここで、会場から質問を受けてみたいと思いますが、何かございますでしょうか。どうぞ。

会場質問

(フロアより：樋脇町 井上氏)

樋脇町の井上と申します。2つほどあるんですが、皆さんがいろいろ提言されている内容では、お金のからないものもあるんですけども、お金がかかるものも結構多いと思うんです。さきほど、甕島の橋のことが言われましたけれども、かなりのお金がかかる問題。このフォーラムの方々の考えの中に、財源的な裏付けというのをどういうふうに考えていらっしゃるのか。やはり、いろいろ夢や理想、そういうものを提言していくという中で、だいたいこういう合併をすると財源的裏付けが生まれてくるということが前提にあるんだろうと思いますけれども、そこがどういうふうに基本的に考えられていらっしゃるのかということ。

私はちょっと心配しているのは、面積は相当大きくなりますけれども、職員をそんなに削るということはできないと思うんです。一気に削るということはできないわけですね。だから、そういう面でそんなに財源的に余分なお金が出てくるということはあまり考えられないというふうに思うんですが。また、交付税の問題も、10年15年は現在の交付税が保証されるとは言っても、それは10年15年であって、その後は暫定的になくなっていくわけですね。そういう問題があると思うんです。

もう1つお聞きしたいのは、庁舎の問題です。重要なポイントだと思います。現在の庁舎を、川内市に置くということで今の庁舎を使うということになると、9市町村の職員を全部というふうには集めるということはできないというのは誰が考えても明らかですから、各支所ごとにかんりの数の職員の方が残るということになるんです。そうすると、分庁方式ということが考えられてくると思うんですけれども、分庁方式ということは一言もないわけですが、この庁舎の問題、老朽化に伴って建て替える時にはどこか移転するんだという話でしたが、老朽化がどのぐらいの期間維持、今の庁舎がどのぐらいもつのかということなども少し詳しくご説明いただければと思います。

(コーディネーター 中俣代表)

ただいまのご意見ですが、会場がざわざわしてまいりましたけれども、わかっていらっしゃる方はわかっていらっしゃるようで、まちづくりフォーラムで検討する事項と、法定合併協議会で検討する事項と分かれておりまして、ただ、我々はあまり財政のことを心配すると意見が言えなくなりますよね。夢は描いていいと。そこで、新市まちづくり計画の中で優先順位を付けて取っておいてもらおうと。10番目でも100番目でもいいから、こういうことが希望があったよ

というのはとっておいてもらう、そういう程度で構わないと思います。

それから、庁舎の問題についても我々が語ることはないんですが、さきほどのスライドの説明でも一応あったかと思いますが、支所体制にとりあえずはなっていくんですかね、よくわかりませんが...。ですか。ということだそう。答えでよかったですか。

他にございますか。

(フロアより：鹿島村 小村氏)

私は甑島の、今度合併する中でも人口が一番少ない鹿島村の小村でございます。さきほどから甑島のこと具体的にはフォーラムの中でも話題に出ておりますし、そういう意味ではやはり広域になっても甑島の我々の生活の利便性というのは上がるんだなというような感じを受けて、皆様のご苦勞に対して感謝をしたいと、こういうふうに思います。

それから、全体的なことですけれども、代表の方に2点ほどいかがいたいたいんですが、このフォーラムの委員会の機能というのは、これから提言なさせて、それから、骨子をまとめるんですか。それで、1月には皆さんのこの委員会解散というような流れになっているようなんですけれども、今、代表が申しあげましたように、この5つの大きな分野の中で、数で申しあげましてさっき出ましたように大きな項目で16、それから、具体的な数にしますと49あるというような大変に膨大な数字ですけれども、提言する場合にはやはり優先順位というのが出ておりましたけれども、皆様の方で会議の中で出た優先順位を付けてお出しになるというようなお考えがあるわけですか。

それから、具体的な細かいことですけれども、さっき出ておりました医療の問題ですけれども、甑は1つのようなんですけれども、現実には上島下島が2つあってというようなことになっておまして、私どもは下島の方に入るんですけれども、おそらく皆様のフォーラムの中で出たと思いますが、病院医療ということも1つ考えてみましても、この中には現在ある施設を充実していくというような提言がなされておられますが、現実には私どもの村の方は隣村の、今の問題になっております、失礼ですけれども、下甑村の診療所を大半利用させてもらっていると、こういう面もあるんです。その点もぜひまた今後の提案の中にお考えくださいということ。

それから、もう1つは、協議会に関係することですけれども、この中にさっき項目ごとに社会基盤の中でも新しい市を募集しておりますが、その中には串木野は入っているという前提でもってみんな今お話は進んでいるようなんですけれども、現実には私どもの耳に入るメディアからの状況であるとか、串木野ははたしてどうなるのかというようなことから関係しますと、今後の動向如何では、

いろんなこういう名称の問題からして、またやり直しのことが出てくるんじゃないかと、そういう危惧もするわけですが、特に漁業を抱えている我々としては、串木野の存在というのはなかなか無視できないものも一方ではあります。そういうことも含めて何かこの場で発表できることがあればお聞かせ願いたい、こういうふうに思います。

(コーディネーター 中俣代表)

どなたか答えますか。私にという質問もありましたので。

優先順位については、各分科会でみんな自分たちの案は優先してほしいという熱意を持って作っております。あとでまたそのへんのところをポイントだけを押さえて発表してもらう時間を作りたいと思いますが、優先順位となりますと時代の要請とか予算とか関わってきますので、どうしても行政の方に任せなくてはいけないのではないかと思います。

それから、どういう人たちが作っていくのかというのは、プロジェクトチームができるんですかね、新市まちづくり計画のチームが行政の人たちを中心にできまして、我々のこの提言が叩き台として考慮していただけるということになります。そして、その新市まちづくり計画ができた時には我々もずっと見させていただけるという流れになっております。それから、医療施設のことなんですけど、提言書にも一応、総合病院まではないんですが、準総合病院の建設という言葉で、甑島の医療のところでは検討してあります。

それから、串木野の問題は難しい問題でございまして、非常に串木野も一番困っていらっしゃる時期ではないかと思いますが、我々まちづくりフォーラムの委員としては、串木野さんはこれまでずっと何か月も一緒に話し合ってきたメンバーでございまして。そういう点では、はっきりと串木野さんの態度が決定するまでは、このまま串木野さんも参加というつもりでこのフォーラム、提言書も進めていきたいと思っております。万一のことがあればちょっと修正も出てくるかと思っております。以上でよろしいでしょうか。

どうぞ。

(フロアより：川内市 小城氏)

川内の小城でございまして、皆さんが一生懸命なって作られていらっしゃるのを聞かせてもらいましてありがとうございます。その中で、今、鹿島の方もおっしゃいましたけれども、祁答院の町もいろいろと揺れておられるようございまして、参加されるかどうか、そこらも一つよろしくお願ひしたいと思います。

私の質問はもう1つあるんですが、都市の魅力というのがあるんですけど

も、その都市という言葉が、都市とは何だろうかと思ったんです。13万が都市と考えるのか、100万が都市と考えるのか、どこらの都市の機能なのかということがどうもひっかかってならない点を感じました。それで、そこらは1、2万から比べると13万は確かに都市なんですけれども、13万というのが1つのところに集まるのではなくて、それぞれの町が集まっての13万ですので、そこらは少し何か検討される中でもう少し検討いただきたいなという点であります。

それと、もう1点でございますけれども、内策と外策とあると思うんですが、非常にこのフォーラムにつきましては内策は非常にできていると思うんですけれども、いわゆる外策、外から見て魅力はどうかというわが町を考える視点で捉えていただいて、たとえば27ページのこだわりを持ったまちづくりというのは、どこかにおいしい店があるよということではなくて、すばらしいまち並みがありますよ、自然がいっぱいのいいまちなんだよ、人情豊かなまちだよといったようなそういうまちを作っていくとおかしいことになるのではないかなと。どうもこれを見てますと、何か東京か福岡のまちを想定して、そういうまちに近付けるというような感じではないかもしれませんが、そのような気がしてなりません。したがって、この今皆さんが一生懸命やっていたら2市4町3村のその魅力は何なのかということの中で、そういう大都市ははたしてこのまちにどういうまちを形成したら来るのかということも1つの、さきほどの財源確保もありましたけれども、そういう視点でもっともっと語っていただきたいなというのを感じました。

どうか、その中でもう1つ、私ども川内でございますけれども、川内の場合は原子力発電所を持っております。それは九州地区のエネルギー供給として我々は誇りを持っておりますけれども、祁答院町の方ではそのことはどうだというような話もあったようでございますが、決してそうではなくて、私どものまちも原子力発電所を有しながらエネルギーのまちというのもう1つこの中に出て来ないというのが僕は残念でなりませんし、また、そのエネルギーのまちというのはただ供給だけではなくて、それに関する、これから電灯がなかったら生活できないと思います。そういったことももう1つ検討の材料の中に入れていただいて、そこらもフォーラムで夢として、原子力は悪いかどうかわかりませんが、やはり私ども資源のないまちから見ると、資源のない国から見ると必要なというふうに僕は思っている1人でございまして、そういったことからそういった意味のこともご検討いただきたいなという、意見というより要望です。よろしく申し上げます。

(コーディネーター 中俣代表)

どなたか。では、柏木さん、どうぞ。

(産業経済グループ 柏木倣委員)

非常にいい意見だろうと思いますので。私もそういうふうないろんな考え方を持っているんですが、当初に代表も申しあげましたように、この資料の中にそれぞれの地域の方の代表者の名前が書いてございます。その中で、各行政ごとに5人ずつ出ておりますから、1人は必ずどれかの分科会に参加をされているはずですが、その方々がグループの中の話合いというのは十分ご承知ですので、もしできたら、そのグループに入っておられる方々の委員の方に会の流れを聞いていただければ一番よくわかるんじゃないかなというふうに考えますし、私などは合併をしたから云々とか合併をするから云々という論議はしておりません。委員に任命をされた時に委嘱状をいただきましたので、委嘱状をもらった時に、私どもは新しいまちづくり、これをする時にはこういうふうな提言をして委員になりますということで、最初から合併がいいとか悪いとか何とかという討議はしておりませんので。私も最初第1回の会の時、私は入来町ですが、入来の中から選出されてきたけれども、合併について云々という議論はこの中ではしませんよと私は申しあげました。それはなぜかと言うと、みんな個々それぞれいろんな考え方がありますから、その問題を出していけばフォーラムの会は成立しないわけですので。そこで、協議会の会長さんから委嘱状をもらったということは合併をすることには別にもう何も抵抗はないよということで皆さん委員になられたんだらうというふうに考えております。その中で、合併をしますよということで、極端に難しい理論とか何とかではないんですけども、私は13万都市、あるいは大きくなった方がいいよと自分では考えておりましたから、当然お引受けをしたわけですが、それで、それぞれのグループの中でいろんな話合いがものすごく出ておりました。最初はぜんぜん知らない方ばかりですから、みんな何を言っているのかわからないというのが1回目でした。まず、座長を選ぶも、私もある程度、見られたように戸籍年齢がずっと上ですから、年を取っているからいいというふうなことであるかもしれませんが、いずれにしても座長、副座長決めて、それから話をするのには2回目ぐらいからやっと話合いができたということですが、最初に申しあげましたように、この中身についてはそれぞれの行政から出て来られた委員の方はみんな知っていらっしゃるので、できたらその方々にその雰囲気とか内容を聞いていただければ一番いいんだらうと思いますし、個々の代表も我々の代表ということで出しておりますが、それなら、このすべての会を代表したから一切あなたの責任とか、それはないだらうと思いますから、同じ仲間として新しいまちができればこういうふうな提言をして、ぜひ新しいまちの首長さん、あるいは

はそれぞれの議会の方々には少なくともこういうことはしてくださいよというお願いを今提言として出しているということで、これはできるかできないかそれもわからないわけですが、そういうことですので、希望をものすごく入れながら、ぜひこれだけはしてほしいというのが提言だろうというふうに考えておりますから、ご理解を願いたいというふうに考えます。

(コーディネーター 中俣代表)

中島さん。

(教育文化グループ 中島増夫委員)

東京、大阪のような大都市を考えているのかといったようなご質問もあったかと思うわけですが、川西薩ベルト地帯といったようなものができればそれにこしたことはないわけだろうと思いますが、私は教育文化のこの部門で話し合いをいたしましたけれども、さきほども申し上げましたが、現在、川内市は川内市、串木野は串木野で大きなまちの中で、それぞれ地域の伝統・文化活動、教育活動を行っておりますし、私どもこの川内から離れたところのまち、甕島、それぞれ今まで長年にわたってきた培ってきた文化、伝統、地域性というのをもうすでに持っているわけですが、それが一緒になって新しいまちを作っていくというその過程の中では、私さきほど申し上げましたように、地域性を十分大事にしながらそれを伸ばす。いろいろな郷土芸能とかそういうものもさらに活性化させていきながら、その中から、それなら宣伝、大綱引きにみんな見に行こうやとか、串木野の冠岳の祭に多くの人が行って、串木野のいろんなものを見ようやとかといったような、それをお互いに交流を図っていったり、お互いの親交を図っていく。そういうことを通じながら、おそらく長い時間をかけて新市のふるさと、新市の伝統文化といったようなものができるだろうというふうに考えております。さらに、たとえば、文化施設等につきましても、川内の歴史資料館とか入来の郷土館とか樋脇の郷土館資料室とか、そういったものがそれぞれに特色を持ちながら、新市になったらネットワークを組めるのではないかと。川内にないものが樋脇にはあるぞ、樋脇にないものが入来にはあるよと、お互いに交流を図っていくというメリット、そういったものがおそらく出てくる。また、そういう努力をしていくことによって、新しい13万都市が生まれてくると、そういう確信を話し合いを通じて持ったと思っております。以上です。

(コーディネーター 中俣代表)

今、中島さんがうまくまとめてくださったと思いますが、たぶん、フォーラ

ムの委員の中で都市という言葉で東京とか大阪とかイメージした人はまずないと思います。田園都市という言葉もありますが、何も地下鉄がモノレールが走っていないなくても、各地域が持っている共有財産を結ぶアクセス道路がきちんとしている、それが1つの都市ではないでしょうかと、そういうことでの都市という言葉を使わせていただきました。

それから、2つ目の質問の内策外策ですが、確かに外策、つまり外に向けてどう発信するということはぜんぜん検討しておりませんでしたので、これから間に合えばまた入れさせていただきたいと思います。

それから、エネルギーのことについても、議題には後の方には出ているんでしょうか、私も整理していきたいと思います。

では、もう一方、受けましょう。

(フロアより：東郷町 田島氏)

東郷の田島でございますが、産業経済グループの私がかねがね大変尊敬しております柏木さんにおたずねいたしたいわけでございますが、さきほど立派な討論の結果をお聞きしたわけでございますが、農林水産業という言葉がありますが、農業と水産業につきまして非常に積極的に出されておりますが、私が見た範囲では、見落としがたかもしれませんが、林業のことがないわけでございますが、国土保全、森林資源のそういった問題、森林資源の育成、その販売の問題とか、いろんな重要な1つの部門テーマではなかろうかと考えるわけですが、この点につきまして討議されたものか、その結果、特に取り上げる必要はないということに判断されたのか、そのへんの経緯がありましたらお聞かせいただきたいと思うわけでございますが、よろしく申し上げます。

(コーディネーター 中俣代表)

では、産業経済の柏木さん、お願いいたします。

(産業経済グループ 柏木俣委員)

まだ、今おっしゃるようなどこまでがこうなるよということまでの小さいところまでは論議の中には入っておりませんが、今言われている地産地消という言葉そのままとこの雰囲気の中に取り込んでいこうということでございます。

(フロアより・東郷町 田島氏)

いわゆる農業と林業の分野につきましての1つの何か審議の過程があった

んだらうかということです。

(産業経済グループ 柏木倣委員)

当然、今、最近新聞にも出ておりますよね、「地材地建」とか、いろいろ林業等も出てくると思いますが、その問題は農業の一環としてすべて取り上げていきたいと思いますので話合いはしてございます。それから先、小さいところまではまだそういう話合いはしてございませんので、気持ちはわかりますけれども、基本的にはすべてのものを包含したのが地産地消ですよという考え方でございます。

各グループの強調点

(コーディネーター 中俣代表)

よろしかったでしょうか。フォーラムの中でもちょっと意見が出たんですが、林業というのも大きく農業の中に括って提言書をまとめるということで落ち着いたようでした。

まだご意見があられるようですが、時間も押してきましたので、では、最後に、各分科会での強調されたいこと等を一言ずつうかがいたいと思いますが、では、社会基盤の小辻さんからお願いいたします。

(社会基盤グループ 小辻浩史委員)

今までも出てきた問題が出てくると思うんですが、大きく2つに分けて提言をしておきます。

道路交通では甑島架橋の現実も提言しておりますし、地域内アクセスの向上も提言していきます。新市のまちづくりの計画の中では、提言の項目はできれば多く残ってほしいと考えております。これは要望です。

また、会議の中で比較的議論の時間を要したのは、地域審議会の設置のところです。9市町村一体となって面積が広大になりますので、特に住民の声が今まで以上に届かなくなるといった点への懸念があげられました。地域会自体は旧市町村単位ということですので、これに加えて地域の住民の声を反映しやすいような仕組み作りというのが重要ということで強調したいと思います。

提言の中には、仕組みを作るという段階で留めておきますが、これはこれから先、協議会等行政の方で具体的なよいシステムを作り上げていただきたいと考えております。この点につきましては、さきほどの新市の概況説明でもありましたが、面積が広大となることが本地域の特徴にもなりますので、広い地域でも住民の声が届きやすいという環境づくりは重要ではないかと考えております。この点で終わります。

(コーディネーター 中俣代表)

社会基盤グループの提言の2つは、1つは、どこへも便利どこからも便利なアクセス網の充実。2番目に、新しいまちを描こう 顔づくり姿づくりまちづくり。2つの大きな項目でございます。

それでは、2番目に生活環境の宮下委員の方をお願いいたします。

(生活環境グループ 宮下文明委員)

生活環境と言いますと、老若男女、さらには動物、植物、すべてにとって身

近で大切な問題であるというふうに認識しています。新たに生まれますまちが大きな目標を持って他の地域に情報発信していくという観点で、生活環境グループにおきましては、環境先進都市というテーマを掲げています。私達はこのすばらしい自然環境を保全し、有効に活用していかなければなりませんし、また、さきほどから出ておりますけれども、消防・救急体制ですとか住宅問題などをクリアして、住環境も充実させていかなければならないと思います。今年初めから、1月からですが、話し合いを重ねてきましたが、根底にあるのは、今後も新市の住民となる一人ひとりが自ら考え提言し続けていくことが必要ではないかなと思っております。そして、その内容をさらに議論していただいて、新しいまちづくりの計画の中で反映していったほしいと思います。以上です。

(コーディネーター 中俣代表)

新しい言葉で、「環境先進都市」という言葉が出てきております。生活環境グループを括りますと、4つありますが、みんなで取り組む環境先進都市づくり。2番、安心できる広域消防・救急体制の構築。3番、地域ニーズを踏まえた住宅・宅地の整備。4番、地域内外の人々が集う魅力ある公園、緑地、河川の活用。この4つで括っております。

では、3番に保健福祉の方から伊集院さん、お願いいたします。

(保健福祉グループ 伊集院睦子委員)

保健福祉の分野は、今後高齢化社会が進むことを考えますと、財政面を含め、非常に重要な政策の分野だと思えます。そこで、繰り返しになりますけれども、合併したことで急激に新しい方針のもとで進んでいきますと、不安とか、とまどいとかそういったようなものを覚えたり、また、いろんなところで支障が出てくるのではないかと思います。合併後もある一定の期間は現状の事業を維持しながら、徐々に移行していくのがよいのではないかという多くの意見が出ております。特に福祉サービスについては現行のサービス水準を低下させることがないようにお願いしたいということがございます。その中で、提言いたしました3つの柱の中では、最初にありました、市民すべてが住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりの推進、この内容を反映していただければ大変ありがたいと思います。以上です。

(コーディネーター 中俣代表)

総括する言葉は極めて概念的になってきますので、一般的になってき過ぎますので、どこでも通用してしまうかなという言葉になりがちですが、内容は結

構踏み込んだことを提言しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、産業経済の柏木さん、よろしくお願いいたします。

(産業経済グループ 柏木倣委員)

産業経済の方ですけれども、今いろいろ申し上げましたが、今申し上げたことで私の言葉は尽きると思うんですが、少なくとも、今ちょっと出ましたように、農業というのはすべてを包含しておりますので、これは内部でも話があったんですけれども、当然森林もあれば畜産もあるし、いろんなものがありますけれども、そういうのはすべて検討をしてくれということなんです、提言として申し上げたいのは、きょうはたくさんそれぞれの行政の長の方もいらっしゃいますけれども、新たに新市ができる時にはぜひこれだけはしていただきたいというのが私もグループの願いなんです。それはさっき申し上げましたように、いくつか申し上げましたが、基本的には農業ということになるんですが、もし農業でできることなら川西薩地区の農業公社の設立をお願いしたい。当然、地域農業のセンターの機能づくりをぜひ創出してほしいということでございます。そして、水産業につきましては大型の漁礁の設置とか、あるいは、どこか串木野の沖あたりにたくさん魚を集めておいて、いっぺんに串木野市に揚げて売れるような、そういうような流通機構をしてほしい。あるいは、都市を創生する。当然、大きなまちになるわけですので、やはり都市機能もこれは十分発揮していかなければならないだろうというふうに考えておりますから、都市機能の発揮がよくできるためには新市のプロジェクトというのもぜひ立ち上げてほしいなということをお願いしておりますし、当然、それに伴えば観光課も作ってほしいなというふうな、できるだけ取り組んでいただける可能性があるようなものを今日は提言としてお願いしてございますが、まだまだ底辺はそれぞれお話もしたいこと、あるいは申し上げたいこと、また、理論・理屈、いろいろたくさんありますけれども、それを要約してこういうふうな考え方をお願いをしているというのが本音でございます。以上です。

(コーディネーター 中俣代表)

ありがとうございました。では、最後に、教育文化の方で中島さん、お願いいたします。

(教育文化グループ 中島増夫委員)

これで終わりになるわけですか。

(コーディネーター 中俣代表)

まだ大丈夫ですよ。

(教育文化グループ 中島増夫委員)

終わりになるわけでしょう。

(コーディネーター 中俣代表)

一応終わりのつもりですが、時間配分が少し早かったかもしれません。

(教育文化グループ 中島増夫委員)

教育文化グループの提言についてでございますが、地域性といったようなことをさきほど申し上げましたが、地域内には本当に小規模学校も多いわけございまして、この合併すれば統廃合になるのではないかといったような考え方も委員の中からも出されておりましたが、特に小学校について、地域の学校、地域の中で子供たちが育つということを考えると、簡単に統廃合すべきではないという意見が強かったということ。地域の方々が、もうこれはどうしても2つの学校を1つにまとめた方がいいといったようなことがない限り、そういうことはしない方が本当の意味での新市の地域づくりができるのではないかという意見が強かったということ、そのこともお願いを申し上げたいと思います。

それから、現在、各旧市町村には教育行政の指導の職員という人が、指導主事さん、学校教育課長さんとかALTとか社会教育指導主事とか公民館の主事さんとかいるわけでございますが、それらについてはなるべく現在の職員を維持し、それを充実する。1つのところに全部1極集中ということはない方が新市の豊かな教育活動が充実できるという考えが強かったと考えております。

それから、教育文化活動の営みというのは子供たちにとりましては美しい未来の夢を描くということでありまして、高齢者をはじめ地域の住民にとっては自分たちの生き甲斐がそこで得られるということに他ならないわけでありまして、新市まちづくりの根本に関わる問題であると。そういう新しいふるさとづくりの取組みにつきまして、新市100年の体系をたてるという大局的な立場で、教育文化は銭を入れても何も卵は産まないということにならないように。人づくり子供づくりに、やはりさきほど財政の問題も出ましたが、いろいろな立場で節約できたり、そういつてできたものは、そういう教育文化の面に割いていただくと言いますか、それを充実できるようにということ強くお願いをいたしたいと、そういうふうに思って、そういう意見が強かったということ申し上げます。

さらに、この教育文化のグループの中では、明日のこの新市をつくる今の小・中・高校生にこの合併の意味とか、合併がどういうふうになるのかという

ことの情報を各学校その他で十分に与えるようなそういうことをしていただくことが、次の新市づくりの大きなもとになるという提言もあったことを付け加えまして、教育文化グループの提言を終わります。

(コーディネーター 中俣代表)

ありがとうございました。何か言い忘れていたことでもございましたら…。よろしいですか。

皆さん、時間が近くなってはきたんですが、だいたい終わりの時間になりますが、最後に私の方から説明をさせていただきたいと思いますが、8ページをお開けいただけませんか。

8ページの上の方の四角括弧の1、2、3、4、これは今までここの語ってきた内容の中ではちりばめられていたような言葉ばかりなんですが、1番目が「地域力を育む新しい地域創造プロジェクト」ですね。これは9ページを見ていただきますと、この四角の1番は、それぞれが4つの提言の中身は、1番目のコミュニティなんとやらというのは教育文化の方から出た提言、ギリシャ文字で3番目ということになります。2番目の地域の特色を生かした何とかというの、教育文化の提言になります。こうやって16出た大きな提言をもう1回5つの分科会の垣根を取り払ってまとめたのがこの4つの提言ということになってくるわけです。同じようにして、(2)は「フェイス・トゥ・フェイス、顔と顔が見える潤いと安心創出プロジェクト」ですね。これはそれぞれ保健福祉グループの案と生活環境グループの案でまとめられております。3番目の「潜在力を発揮する産業活力創生プロジェクト」。これは10ページを見ていただきますと、産業経済グループの案3つで成り立っております。4番目の「都市力を創生する都市飛翔プロジェクト」。これは11ページを見ていただきますと、産業経済、社会基盤、生活環境、3つのグループからの意見を5つまとめて、「都市力を創生する都市飛翔プロジェクト」としてございます。そして、それを8ページの下の方にグラフにしてみているんですが、地域力というのを縦軸にとりまして、都市力を横軸にとってみたんです。これはどちらでもいいと思うんですけども。そうすると、これがだいたいこのように並んできます。地域力の方に力を入れているプロジェクトが1番、2番。都市力の方に力を入れているのが3番、4番ということになります。こういうふうに並んでいるのだというようなふうに概念的に理解していただければいいかと思えます。縦軸の地域力の発揮というところでは、特に地域特性の活用。縦軸の上の方に書いてありますね。それから、コミュニティの強化。これに重点的に力を入れたいと。それから、横軸の方の都市力の発揮というところでは、規模が拡大することによる拡大効果、それと相乗効果、いろんなものが共有財産にな

るということでの相乗効果、このへんで都市力というふうに分析して力を入れていきたいというふうなことで提言がまとめられていると思います。

さきほど意見をもらいましたように、まだ不行き届きなところもございますが、一応、時間が来たようでございますので、終わりにさせていただきますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

以上